

人々の信仰を伝える

所在地：六木 3-10-13 だいこうじ 大光寺



←この部分に「万治二年霜月日 上田原七筆」と小さく記入してあります

絹本着色涅槃図

大光寺(真言宗)は、慶長元年(1596)に織田信雄の旧臣天野国忠が開基となり、創建したと伝わります。

涅槃図は、釈迦が入滅(亡くなること)する際の姿を描いたものです。仏教では、釈迦が入滅することを涅槃に入るというため涅槃図と呼ばれます。図の中央にひときわ大きく描かれた横たわっている人物が釈迦です。

本図は、縦204cm、横160cmの大きなもので、図の右下に小さく「万治二年 霜月日 上田源七筆」と書いてあり、万治2年(1659)11月(霜月)に上田源七が作成したものだということがわかります。もともと上野の寛永寺にあったと伝わっていますが、上田源七について詳しいことはわかりません。

製作年・製作者がわからない作品が多い中、両方とも判明する貴重な涅槃図であり、登録文化財となりました。



摩耶夫人



阿難尊者



虫たち

文化財豆知識

釈迦の入滅を悲しむ母・弟子・生き物

雲に乗っている女性は、釈迦を生んで七日目に死去した摩耶夫人で、釈迦を助けようと天女を引き連れ長寿の薬を持って駆けつけようとしていますが、間に合いませんでした。また、悲しみのあまり倒れ込んでいるのは、釈迦の十大弟子の一人である阿難尊者です。ほかにも獣や鳥、魚、虫など多くの生き物が嘆き悲しむ姿が描かれています。